

平成30年度1月号

十二月田小だより

川口市立十二月田小学校

川口市朝日1-11-1

TEL (048)222-4383

FAX (048)222-9388



学校教育目標 進んで学ぶ子 仲良くできる子 たくましい子
児童数 男子509名 女子483名 計992名

㊦っかりと聞き・㊦くわく未来を語り・㊦すんで学び・㊦れにでも仲良くできる しわすだっ子

日本人初のマラソンランナー「^{かなくりしろう}金栗四三」

校長 竹内 まゆみ

新年明けましておめでとうございます。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、健やかに平成31年の新春が迎えられたこととお慶び申し上げます。また、本年が明るく実り多い年となりますよう祈念いたします。本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

お正月の風物詩となった「箱根駅伝」。この駅伝の創設者が「金栗四三（かなくり・しろう）」です。今年のNHK大河ドラマ『いだてん』として描かれることになりました。

金栗四三の名前は、箱根駅伝の最優秀選手に贈られる『金栗四三杯』から知っていましたが、冬休み中に、金栗四三に関する本を読み、大変興味をもちました。少し、紹介します。

金栗さんは、日本が初めてオリンピックに出場したときの一人です（1912年のストックホルム・オリンピック）。しかし、この大会のレースの途中で姿を消してしまうのです。今の時代なら、良い成績を残せない選手に対して非難を浴びせることもあるでしょう。ところが、この時日本を世界大会に出場させるために尽力した「嘉納治五郎」（かのう・じごろう 柔道の創始者）の言葉に、これから日本のスポーツの普及に取り組んでいくという気概を感じます。

『みんな落胆してはいけない。私自身、君たちに勝ってもらいたいとは露ほど思っただけではなかった。結果は予想していた通りだ。しかし、外国の技術を学び、大きな刺激を得たことは大成功と思う。日本のスポーツが、国際的なひのき舞台に第一歩を踏み出すきっかけをつくったという意味で大きな誇りをもってほしい。何事もはじめからうまくいくことは少ないのだ』

そして、落胆している金栗に対して、さらに言葉を続けます。

『日本での大記録も通用しなかったね。闘志を失ってはならない。四年後がある。次の大会も日本のマラソン界のために心血をそそげ。私もできるだけの助力をする。日本の今後のオリンピック参加についても極力がんばるつもりだ』

金栗四三は、この嘉納治五郎の期待通りに活躍することになります。選手としてオリンピックに出場するのはもちろん、箱根駅伝の開催に尽力し、日本に高地トレーニングを導入するなど日本マラソン界の発展に貢献し、「マラソンの父」と呼ばれました。

東京オリンピック（2020）の開催を前に、日本の近代スポーツの夜明けについて思いをめぐらすのもいいかもしれません。

